

第1回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「奈良のまちづくりと土地利用のあり方」

日時 令和4年1月16日(日)10時00分～12時00分

会場 上牧町文化センター

資料説明	荒井奈良県知事
<p>大阪のベッドタウンとして発展してきた奈良県は、住宅が多く、産業や消費の場としての土地利用が少ない状況です。特に西和地域では顕著であり、次の世代への共通の課題であるという認識が一番大事だと思います。今の時代にふさわしい便利なまちづくりをどうするか、知恵が要りますが、チャレンジすべきではないかと思います。</p> <p>土地利用の課題として、住工混在化が進んでいること、農地、耕作放棄地が活用されていないこと、適正な管理がなされていない森林が増加していることなどが挙げられます。</p> <p>今までは、課題に対して、県でマスタープランを作って解決するというやり方でしたが、現在は、県も参画して一緒にまちづくりをしましょうといったような地域も出てきています。国や県から下りてくるのではなく、地元からこのようなまちにしたいということをもマスタープランにするといった手法を取り始めております。</p> <p>また、若者の世代が定着するような脱ベッドタウンのためには、新しい実験をしていかないといけないと思います。近隣の大和平野中央で、そのような取組として、ウェルネスタウン、スタートアップヴィレッジ、スポーツ施設というようなテーマでまちづくりを考えています。大和平野中央の様子を見て、この地域でもできないかどうかということを考えて始めていただきたいと思います。</p>	

資料説明	森三郷町長
<p>三郷町は、ベッドタウンとして発展し、工場地域等が少なく、居住地域が多いのが特徴であり、都市計画マスタープランによるまちづくりを進めてきました。</p> <p>町の土地利用の課題として、水害対策と奈良学園大学跡地利用が挙げられます。</p> <p>三郷町は大和川に連なるような住宅地で、常に水害と隣り合わせです。国、県、流域市町村とともに防災対策とまちづくりの連携による総合的な対策の実施を目指すこととなり、特に被害の多い惣持寺地区は奈良県平成緊急内水対策事業に選定され、令和4年度に調整池の工事に着手予定です。</p> <p>また、大学の移転は関係人口の減少、地域経済の衰退という大きな課題ですが、跡地をFSS35キャンパスとして活用し、地域再生と将来像である全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の実現に向けを掲げ、官民連携により、様々な年代や個性をもつ方が集まる場所を目指し、大学生のキャンパスから住民のキャンパスに生まれ変わります。</p> <p>これら以外にも、誰一人取り残さない社会の実現や日本遺産を軸として、歴史や観光振興にも注力してまいります。</p>	

資料説明	今中上牧町長
<p>上牧笹ゆり回廊は、滝川を中心に、史跡上牧久渡古墳群や片岡城跡など点在する歴史・自然遺産を含む地域資源を巡る周遊ルートで、自然を満喫しながら、健康増進に繋げることを目指した取組を「かんまき彩愛(いろあい)プロジェクト」として進めています。</p>	

史跡上牧久渡古墳群には、遊歩道と展望広場を設け、回廊内の眺望スポットとして、令和8年度の史跡公園化に向けて整備を進めています。

片岡城跡は美しい眺望を回復するため、桜を植樹し、回廊における憩いの場として、随所に案内板の設置も行っています。

他にも、空き家を活用した、コミュニティの拠点であり、回廊周遊の休憩場所にもなる「ほほ笑みサロン片岡」や住民の健康増進とコミュニティや憩いの空間づくりのための滝川親水性護岸整備、滝川への芝桜の植栽、滝川水辺周辺を活用した遊歩道や憩いの場、公園を整備しています。

町民の憩える場所と彩りのある町を創生し、町への愛着心を育むため、資源を生かした魅力あるまちづくりを目指していきます。

資料説明	平井王寺町長
	<p>王寺町は、県で一番人口の伸び率が高い町ではありますが、面積は県内では5番目に小さいコンパクトな町です。</p> <p>土地利用の今後の方針として、王寺駅周辺地区を町及び広域の中心拠点に位置づけ、都市機能の集積を図るゾーンとし、JR畠田駅周辺地区をその周辺地域の拠点と位置づけ、生活利便施設の確保を図るゾーンにしたいと思っています。</p> <p>また、国道25号、168号の沿道では、商業施設や事業所の集積を図る区域として考えています。</p> <p>王寺駅周辺の再整備は、王寺駅周辺が西和地域の中核となる拠点機能の強化を目指しています。駅の北側は防災機能の強化に重点を置き、中央公民館跡地を有効活用し、平時は交流の場として、非常時には防災拠点として活用できる防災広場の整備を計画しています。</p> <p>一方、南側では、西和医療センターの移設の候補地ということで、センターを核に、福祉、健康増進、広域行政といった機能も併せ持つエリアにしたいと考えています。</p>

資料説明	清原河合町長
	<p>河合町では、「～人に優しい 人情あふれる町 温かい町～」を基本理念とした河合愛AI構想を基本に、まちづくりを進めています。</p> <p>今後は、生活活動を一定の範囲内で完結させるニューノーマル、新しい状態に対応したまちへのリニューアルが求められ、働く場として企業誘致、子育ての場としてオープンスペース、暮らしの場として生活利便施設の配置と、それらを結ぶ交通ネットワークの整備がポイントと考えています。</p> <p>具体的な施策は多岐にわたりますが、代表的な例として、①旧第三小学校を利活用した河合町のシンボルとなる複合的施設の整備、②荒廃農地での農業体験を通じた交流や河合町ブランドの特産品の普及を目指すたんぼの楽耕、③小中連携、英語、ICT教育といった教育の取組、④史跡と古墳巡り、御墳印帖プロジェクトなどの取組を実施しています。</p>

これまでの50年をつくり上げてくださった先人の意思を引き継ぎ、100年目にも誇れる町として、町のみんなで未来へと漕ぎ出していきます。

意見	荒井奈良県知事
<p>各町からのお話を伺い、この地域には共通する課題や目標があることがよく分かりました。</p> <p>共通する課題としては、若者の流出防止や水害対策があると思います。また、本日はあまり話が出ませんでした。リニア中央新幹線の全線開業が15年後に迫っており、「奈良市附近駅」から割と近いこの地域では、リニア中央新幹線が来るということを前提に地域の発展を考えることが共通の目標になってくるのではないかと思います。その他にも、健康長寿、農業、教育、観光、DXなどが共通の目標になってくると思います。</p> <p>一方で、これだけの地域を便利なまちにするためには交通の結節性が必要ですが、この地域は、施設をつくって、テーマを決めて、核をつくり、その結節性を向上させることができる地域だという感じがしました。</p> <p>この西和7町の発展を、これから楽しいことが力強く起こる地域であるということイメージし、現状に満足しないことを共通の気持ちにして、進めることができたらと思います。</p>	